

For
Adult
Only
18

02

洩矢諏訪子編1

鳥籠の彼女





Toho Project Fanbook

『鳥籠の彼女02 洩矢諏訪子編1』

2014/10/12





このままじゃ
私が私じゃ
なくなっちゃう

だ、だめ……
逃げなきゃ
一刻も早く
ここから……



誰か助け

ガミガミ
ズレ
ガミガミ
ズレ
ガミガミ

グググ

バグバグ

ズレ
ズレ
ズレ

ガミガミ

ググ

ふふ……
ここには誰も来ませんよ
そして誰に探知される
こともない



誰かあつ！
出して！

ガミガミ

早苗っ！
神奈子おっ！

ガミガミ

ズレ
ズレ

いやあつ！
もう許して！

だめです
僕は僕の勝手を
諏訪子様に押し付けると
決めたんですから

この何年も積もった
貴女への思いを
吐き出しきるまでは
やめるつもりなんて
ありません

グズ

グズ

グズ

アキコ

やだ……
やだやだ……っ
このままじゃ
妊娠させられちゃう

ゴク

ぎゅ

ゴキ
バネ

ゴキ

ゴキ

こいつの赤ちゃんなんて
産みたくないよお……

グズ
グズ
グズ





ほら！
また出しますよ！
しっかり受け取って下さいー！

ズッ、ズッ、ズッ

おまのハニー

ゴッ

グッ

ズッ

ズッ、ズッ、ズッ

ズッ、ズッ、ズッ

ズッ、ズッ、ズッ、ズッ、ズッ



ようやく
観念して
くれましたか？

もう貴女は僕から
逃げられない

だって僕が
あなたの生殺与奪の
権利を握っているのだから

もう何回目だろう
私……もう……

はあ

グッ

ゴッ



この牢の
八角と入り口に
結界の札を
施しました

それが外界と
諏訪子様を
隔絶しています

グイッ

トコッ

トコッ

トン、トン

グッ



僕が諏訪子様を
信仰する

諏訪子様は
僕の信仰だけで
生き長らえて
いるんですよ

諏訪子様は
僕のためだけに生きて！

僕のことだけを見て！

だから

びしょ

あ...あ...あ...
あ...あ...あ...
あ...あ...あ...

ズッ
ズッ
ズッ

ドム

ズッ



次第に身体は慣れていき
こいつの一突きに
悦びを感じる身体が
出来上がっていた

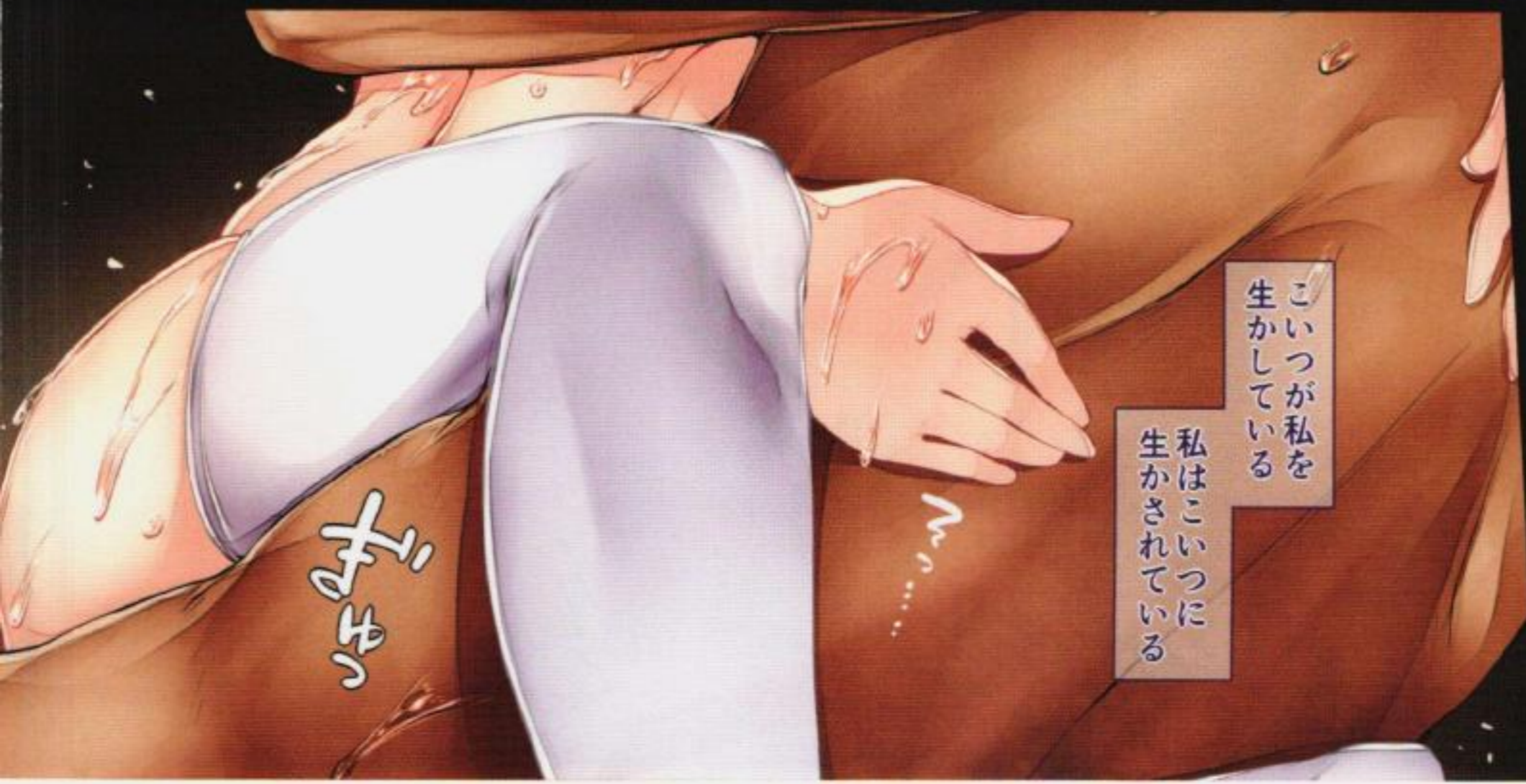
こいつの言う
「諏訪子様」に
なりつつあるんだらうな
と鈍った思考を巡らせる



僕が諏訪子様のお世話するから

僕が全部
諏訪子様の全部
面倒見るから!

あれから何度
イカされたんだらう
数を数えるのも
億劫になるくらい抱かれた



こいつが私を生かしている
私はこいつに生かされている





今日もまだまだ
できるよね？

おまほおまほ
おまほおまほ

諏訪子様っ！
僕だけのっ！
絶対離さないからっ！

ドニルッ

僕がいっぱい
諏訪子様を
見ているからっ！

グニッ

ドニルッ

ドニルッ

ドニルッ



私は、ここで

ずっと

この人と

Fin.

後書

ここまでご覧頂きましてありがとうございます。
しろくろうきのスギユウと申します。

まず初めに、諏訪風神祭にこの本が間に合わず申し訳ありません。
本を楽しみにされていた方、特に当日会場までお越し頂いた方には
深くお詫び申し上げます。

今回の本はケロちゃんを支配したい男のお話です。
わりといつもどおりの展開です。
前回のとみちゃんすな男と同じように、ケロちゃんが心底好きで
その末の暴走といったかんじ。
僕が好きなんだから君も僕の事好きだよね？が前回。
僕は君を見てる。だから君も僕を見て！が今回。

作画面ではコマの数が増えました。
やったねたえちゃん！作業時間が増えるよ！
……実際、鳥籠の彼女1と比べて今回の2は難産でした。
やはりイラストのほうに向いているのかなあと思う次第。
いろんな方の同人誌を眺めては
「すげえなーこんな構図思いつかねえ」
「このコマ割り迫力あっていいなー」
と、まさに・q・←こんな感じの顔で感服しています。

しかし本としてのボリュームを出そうと思うと、どうしても
イラスト形式より漫画形式のほうに寄ってしまうんですねー。
(もちろんイラスト本をディスる意図はありません)
どうにか自分の中で良い折り合いが見つけれられたらなと思います。

次回は受かっていれば冬コミに参加します。
できたら2冊……紅樓夢で出せないであろう萃香本と、新作の
てみちゃん本を……！

奥付

原作：上海アリス幻楽団 様
印刷：プリントネット 様

発行：しろくろうき
責任：スギユウ
発行日：2014/10/12

連絡先：yuu_819_as@hotmail.com
ブログ：<http://shirokurousa.blog.fc2.com/>
twitter：sugiyuu
pixivID：97799

「あの、すみません。ここに不思議な道具を売ってくれる巫女さんが居ると聞いて伺ったのですが、清浄な空気が張りつめる神社の朝、本殿の雑巾がけをしている巫女に一人の男が話しかけた。

膝についた埃を払い、ゆつくりと巫女が屋内から姿を現す。實銭箱の横に置かれていた靴に足を通し階段をトントントンとリズムよく降りる。

「あら、もしかしてあの人から話を聞いて来たのかしら。あなたが二人目のお客さんよ」

巫女は軽くお辞儀をすると、愛想よさげに男に笑顔を向けた。

男は軽く手で会釈を返す。

「そう、あいつから話を聞いて来たんです。巫女さん、ちょっと変なお願いなんだけど聞いてもらえますか？」

「ふふ、変なお願いといえは、あの人にも妙な注文だったわ。まるで妖怪を生け捕りにしようとしているような素振りだった。まあ、私は対価が貰えるならそれでいいんだけどね」

そう言った巫女は男の目をしつと見据える。

対価があればいいとは口で言っているものの、その眼差しからは相手の真意を伺おうとする様子が見て取れた。

男は多少の居心地の悪さを感じながらも話を続ける。

「それでお願ひなんてすけど、空間を切り取れる道具ってありませんかね」

男のまさかの一言にぎよんとする巫女。そういった事が得意な妖怪の知人が一瞬脳裏を掠める。が、頭を振ってその姿を追い払った。

「あいつを噛ませると絶対面倒なことになる……」

少しの間思索し、巫女が口を開いた。

「空間を切り取るって、また大層なことを……まあ、目的によりけりね」

「ある神様と話し合いの場を持ちたい」

「話し合い……それでなぜ空間を切り取るなんて」

「もし話が決裂して怒りを買ったら人間である僕たちに勝ち目なんて一つもない。だから、そうなった時に神様を閉じ込めたいんだ」

神を一定の断絶された空間に隔離するという事、それ即ち神の孤立を意味する。信奉者の居なくなった神はみるみる力を失い、やがて存在できなくなるだろう。その時、神は死ぬといってもよい。また空間が開けば力が戻るとはいえ——などと巫女が考えていると男が腰に

下けている貨幣の束を差し出した。じゃらりと音が鳴り、硬貨が朝の日差しを鈍く反射する。

「予算はこれだけあります。どうか……」

以前男が尋ねて来てから大きな収入の無かった巫女にとって、その輝きはたたまたまばゆいばかりの光に見えた。

「空間を切り取るとはいっても、亜空間に飛ばすとかそういう事は私にはできない。けれど、御札を使って擬似的に隔絶された空間を作ることはできる」

「はい！それで結構です！」

「分かったわ。それじゃ少し時間を頂戴。使い方の説明と注意事項を——」

巫女は男に九枚の札を渡した。交渉が決裂するその時まで最後の一枚を絶対に貼ってはならない。神に閉じ込めたことが悟られると、それだけで気分を害され交渉どころでは無くなってしまふ。そして決裂したら必ず私を呼ぶこと。その他諸々の注意を告げ、巫女は金銭の束を受け取った。

「ありがとうございます！有事の際はどうか、宜しくお願ひします」

「あまり無茶しないようにね」

小走りに駆けていく男の背中を見送りながら、巫女は一つ溜め息をついた。

（どう考えても大事になりそうな予感しかしれないわね……まあ、そうならたまたまあの男の人から依頼料が貰えるし、それはそれで）

手のひらの上で硬貨を弄びながら鼻歌を歌う。気がつくやうに陽の光は真上から差していた。神社の境内には気だるい陽気が充満する。きびすを返すと少し重そうな足取りで階段を上がり、巫女は本殿へと消えていった。

ひた

んん……

諏訪子様……
やっとなんきりになれたね
この時をどれほど
待ち望んだことか……

さあ、これから
一緒に楽しい時間を
過ごそうね

ひた

ん……揺れてる？
早苗が運んでくれてるのかな？
私たしかお酒飲んで……
あれ、全然思い出せない……

床ごっこつ
してる

トサッ

ガッ

ガッ

でも
ひんやり
してて
気持ち
いいかも



はあはあ……
無防備な諏訪子様
僕だけの諏訪子様

ぶっ
ぶっ
ぶっ

少し汗ばんでるね
風通し良くしてあげる

はあ……っ

なんかぼんやりと
男の人の声が
聞こえるような……

む

諏訪子様の
ぶっくりおっぱい
ふにふにしておいて
かわいいよ……

くっ
くっ

んー

こんな間近で諏訪子様の
香りを嗅げる日が来るなんて
思ってもいなかった

ア
ア

これからは毎日
好きだけ一緒に
居られるんだ

はっ

耳に吐息が
かかってくすぐったい
さっきから身体が
ビリビリして
変な感じがする……

ん

びん



ひっ！
な、貴方だれ！？
なんで私こんな所に

おや、やっと
お目覚めですか
諏訪子様

離れなさい！
私を誰だと思って

ふふ、自分の身体の
異変に気付きましたか
貴女は神としての力を
失っている

すっすっ



ん……



こんなことを
されても……

いやあああ！
やめてっ！

まったく
抵抗できない
歳相応の女子の
力すら出せない

ドッ

バドッ



ほらほら
そんな悠長にしていると
挿入してしまいますよ

は……っ
さすがにキツイですね
強く打ち付けないと
押し出されそうだ……っ

なんで！？
どうして力が出ないの？
こんな下衆一人
殺せないなんてっ

バドッ

しゅわっ

ほら諏訪子様
もつと身体を寄せて
しっかり受け止めて下さい

ヒクッ
！？

え、うそ、やだ
待ってそんな
や……あ……いや……

出てる……っ
私の中に
こんな下衆の
精子が……

サメ
ガクッ

シクッ

ガクッ
ガクッ

ガクッ
ガクッ

ガクッ



おやおや、いっばいこぼしてしまいましたねいけななお方だ

罰として—

やだっって言っただのにまた……一番深いところに熱いのが流れてくる……こんな……いっばい……

もう一度受け取ってもらいますよ!



頭がぼーっとしてくる気を強く持たないと……流されちゃう……

も……やめて……もう満足でしょ……ここから出して……

またこんなに溢れてきますよお仕置が必要ですねえ



よいしょっと
それじゃお次は
こんなのはどうです？

ひっ！
そこはダメえっ！
かき回さないで……っ！

中のぬるぬるのせいで
指が円滑に動いて……
やだ……声……
抑えられないくらい
きもち……い……

ふふっ
気に入ってもらえた
みたいですね
膣肉が喜びで
うねり動いてますよ

グッ
グッ
グッ

グ
グ
グ

グ
グ
グ

グ
グ
グ

グ
グ
グ

ひっ
それ以上は
きちゃ……

あ……くる
きちやうからあっ！

いっっちゃった……
こいつの指で……
私イカされたんだ……

ハ
ハ
ハ

グ
グ
グ

グ
グ
グ

グ
グ
グ

グ
グ
グ

グ
グ
グ